

一般社団法人 和乃絆

令和三年度

事業報告書

就労移行支援事業所マイパレット
自立支援教室ひだまりカフェ
就労定着サポート室あしたば

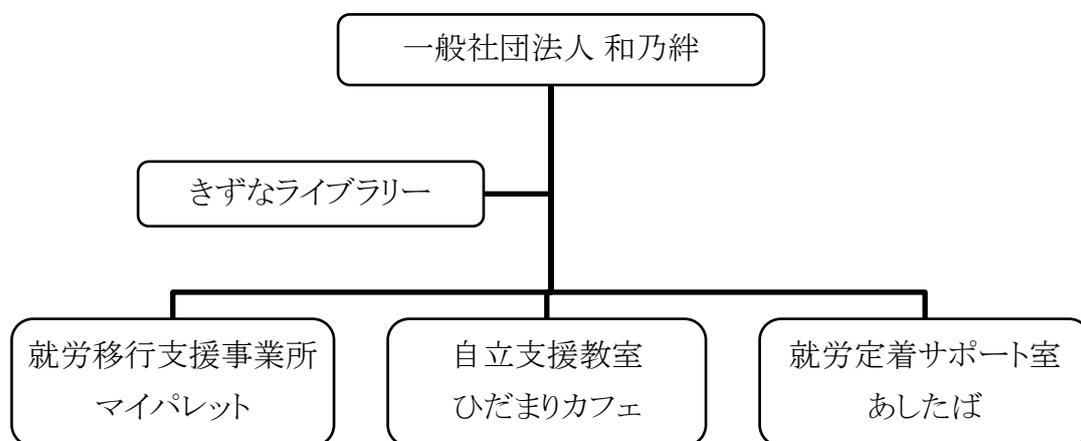
内 容

1 法人の指針・概要.....	2
2 事業所名及び所在地.....	3
3 従業者の人数・人員配置.....	3
4 契約利用者数.....	4
1)就労移行支援事業所マイパレット（令和4年3月31日時点）.....	4
2)自立支援教室ひだまりカフェ（令和4年3月31日時点）.....	4
3)就労定着サポート室あしたば（令和4年3月31日時点）.....	5
5 事業報告.....	5
1)就労移行支援事業所マイパレット.....	5
① 事業所内作業.....	5
② PC技能訓練.....	5
③ 施設外就労.....	6
④ 工賃実績.....	6
⑤ 企業等実習・就労体験.....	7
⑥ 職業訓練.....	7
⑦ 事業所内活動.....	7
2)自立支援教室ひだまりカフェ.....	8
① アウトリーチ(訪問活動).....	8
② 生活訓練.....	8
③ 事業所内作業.....	8
④ 工賃実績.....	9
3)就労定着サポート室あしたば.....	9
① 職場定着に向けて.....	9
② ジョブコーチや他機関との連携.....	9
4)きずなライブラリー.....	9
① まちライブラリー.....	9
② おもちゃ図書館.....	10
③ 地域に開けた事業所作りについて.....	10

1 法人の指針・概要

運営理念 “自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく”

当法人の理念「自己理解、自己研磨、自己決定を支えていく」の精神に則り、より具体的な行動、考え方の基準として制定したものです。役員、従業員一人ひとりが、この行動規範に掲げた趣旨を尊重し、一般社団法人 和乃絆の一員として、また社会人として、法令の遵守はもちろんのこと、良識ある行動をとり、社会的責任を果たしていくよう一層努力してまいります。



行動規範	I. 社会とのコミュニケーションの促進を図ります II. 個の力を最大限に発揮し、かつ尊重し合います III. 高い透明性と公正な姿勢に基づき行動します IV. 必要とされる事業を実施し、社会への責任を果たします
------	---

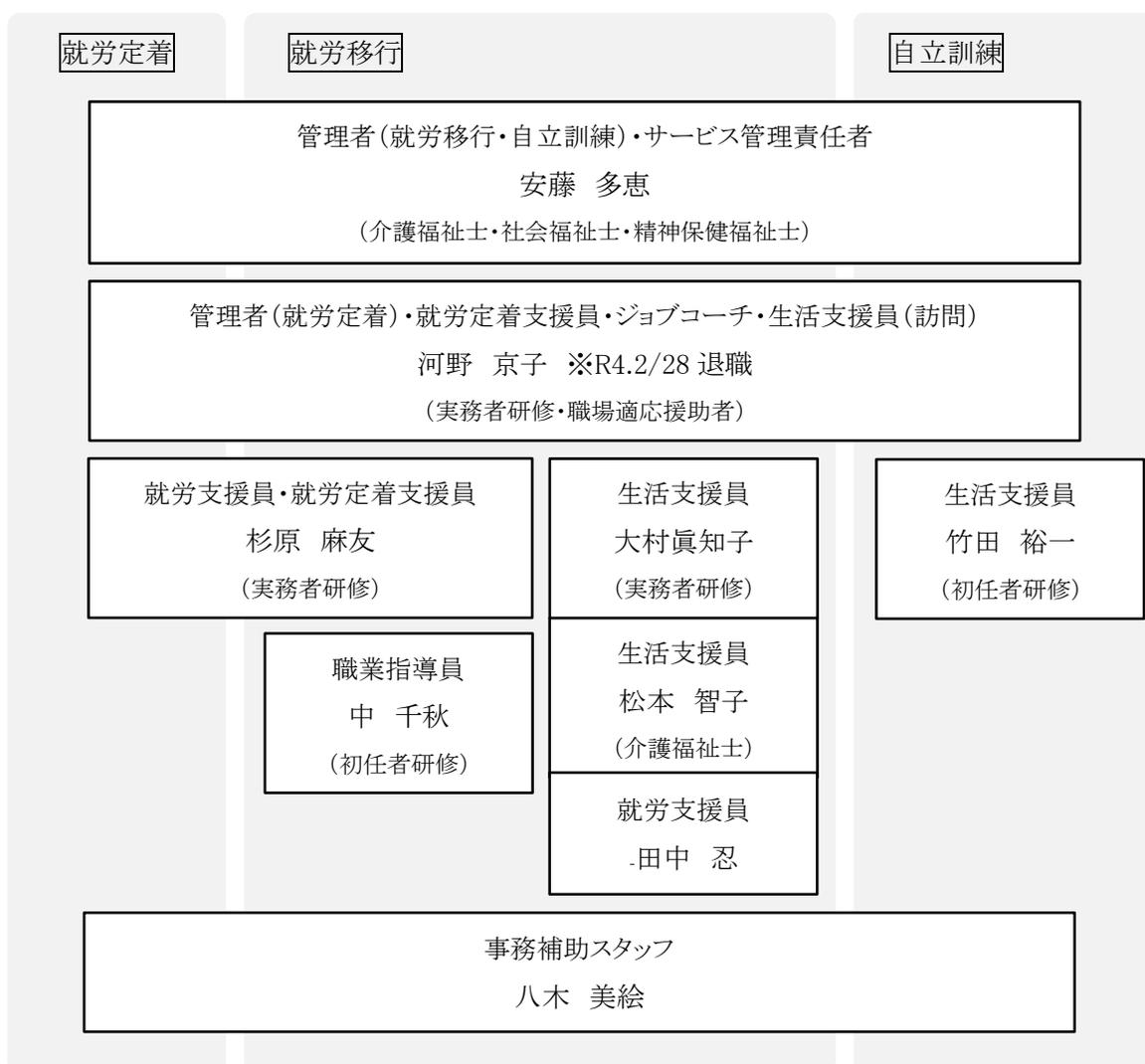
事業別理念	就労移行	就労移行支援事業所マイパレット 社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。できないこと、苦手なことに自ら対策を講じることができるような人材育成を目指します。
	自立訓練	自立支援教室ひだまりカフェ 自分以外の存在全てを広く「社会」と捉え、社会生活の第一歩を踏み出すために、必要な訓練を講じ、社会人に必要な資質を獲得できるよう支援します。
	就労定着	就労定着サポート室あしたば あしたばの葉は、「摘んでも明日には芽が出る」といわれるほど成長の早い植物、摘まれてもまた生えてくる、そんな明日への活力を支えるため支援します。

2 事業所名及び所在地

就労移行支援事業所マイパレット	就労移行支援	☎641-0014 和歌山市毛見1130-1 T・Tビル1階 電 話:463-0064 F A X:463-0065
自立支援教室ひだまりカフェ	自立訓練(生活訓練)	
就労定着サポート室あしたば	就労定着支援	
きずなライブラリー	(地域交流)	

※令和3年6月1日より移転(内原726-13 → 毛見1130-1 T・Tビル1階)

3 従業者の人数・人員配置



常勤職員	5名	計 9名
非常勤職員	4名(1名は事務補助)	

4 契約利用者数

1) 就労移行支援事業所マイパレット (令和4年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数	
52名	13名	9名	
一般就労者数			
のべ一般就労移行者	就労継続中	離職	
37名	31名	6名	
		福祉的就労	4名
		一般就労転職	1名
		ほか	1名

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
就労移行支援事業所 マイパレット	新規利用者数	6名	8名	13名
	一般就労(就職)	7名	2名	11名
	ジョブコーチ	計22(13)名 ※()内は法人外ケース	計22(7)名 ※()内は法人外ケース	計20(8)名 ※()内は法人外ケース
	福祉的就労	0名	0名	0名
	途中退所	0名	0名	1名

2) 自立支援教室ひだまりカフェ (令和4年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員	現在利用者数
10名	7名	4名

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
自立支援教室 ひだまりカフェ	新規利用者数	2名	6名	3名
	一般就労	0名	0名	2名
	福祉的就労	1名	3名	0名
	他福祉サービス	0名	0名	1名
	途中退所	0名	0名	0名

3) 就労定着サポート室あしたば (令和4年3月31日時点)

のべ利用者数	利用定員 (現時点での職員配置より算出)	現在利用者数
7名	10名	5名

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
あ し た ば 就 労 定 着	新規利用者数		2名	2名
	就労継続中		4名	5名
	途中離職		1名	0名
	期間満了		0名	2名

5 事業報告

1) 就労移行支援事業所マイパレット

① 事業所内作業

内職軽作業においては、株式会社ヤエパックおよび株式会社デファクト・スタンダード(ブランドディア)からの業務委託は行っていません。株式会社小久保工業所からの業務委託は継続されています。また、6月に移転したことで作業工程を併設の自立訓練と共有しやすくなったことで、月1回の納品が2週1回程度にペースアップすることに成功しています。株式会社オージス総研から委託されているリサイクルパソコン業務(はじまるくん)は、前年度と同程度量で目立った変化はありません。移転時に重要物品を紛失するトラブルがありましたが、保管場所を定めて、委託期間時には週1回のミーティングを設けるなどして対応しています。今年度もコロナ禍の影響で、贈呈式などは取りやめになりましたが、単価も委託量も例年並みでした。チラシや名刺などDTPの委託業務が、前年度も今年度も単発で繁雑に発注あり、今年度はリモート支援に参加していた利用者さんに担ってもらうなど、一部は利用者さん主体の実施が叶いました。今度も利用者さん参加のあり方が課題です。

協力先: 小久保工業所、NPO法人わたぼうしくらぶ、社会福祉法人一峰会

海南・海草圏域自立支援協議会、株式会社オージス総研(はじまるくん)

和歌山サムライ、竹あかり実行委員会、みんなの広場、NPOサポートセンター

② PC等技能訓練

今年度は、新たに日本漢字能力検定協会の漢検を実施することになり、10/8に第1回目

の試験を実施しました。今後も年1回10月の実施を目指していきたいと考えています。また、例年と同様、「日本情報処理検定」の検定試験に取り組み、主にWordとExcel操作の訓練を週2回、主に月・金の午後に実施しました。日本情報処理検定試験は、年2回(7/9、12/10)にそれぞれ実施しました。アビリンピック(障害者技能競技大会)では、当事業所から7名の入賞者を輩出し、うち1名がデータ入力部門で全国大会に進んでいます。名刺管理や職員のタイムカードなどの業務を職業訓練の中で不定期に行うことは、前年度も課題のままでしたが、今年度はほとんど実施に至らず、リモート支援を経て就職された方もおりましたが、取り組んだ内容や試験対策や学びの部分が多く、実務的な内容を実施することは未解決の課題です。

検定受験実績

		利用者	ほか	計
日本情報処理検定	7/9	15名	0名	15名
	12/10	13名	0名	13名
日本漢字能力検定	10/8	6名	3名	9名

※1名が2つ受験した場合は2名と計算しています

③ 施設外就労

指導員が引率し、実際に企業に出向いて就労を行っています。平日の午前中に、紀三井寺公園の清掃業務を請け負いました。株式会社KUSUNOKIからの委託は休止しており、今年度も復帰の目途は立ちませんでした。また、新たに令和3年2月より株式会社ぼん家具より委託を受けて、組み立て家具の梱包業務を週2回、水曜日と金曜日の午後から3時間請け負いました。特にぼん家具は、工賃配分が1回に2,000円と比較的高額であり、自己負担金が発生している方を優先的に割り当てています。当面は、現況の委託状況を保持する形でいきたいと考えています。

協力先: 紀の国はまゆう、株式会社ぼん家具

④ 工賃実績(月平均※支給総人数で総額を割ったもの)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
16,021	13,306	13,966	14,300	10,776	10,198
10月	11月	12月	1月	2月	3月
11,837	14,789	12,926	11,215	10,698	13,337
のべ工賃支給人数		19名	月平均	12,780	

⑤ 企業等実習・就労体験

就労体験の実施件数は、前年度と比較すると例年程度に戻ってきました。また、一般就労移行者もコロナ禍が落ち着いたタイミングで増加し、例年通りの移行者数まで回復しています。今後も情勢の変化により、求職活動のあり方には変化が起こると思われます。今年度は、リモートで支援を受けた方が1名おり、在宅就業での就職者も同じく1名出ています。在宅就業の場合には、実習などの機会を設けることが難しく、面接や採用試験での挑戦になり、今後は採用試験対策にも注力していく必要があると感じています。前年度の課題でもあった地域企業との独自の連絡網を確立することだが、年度は、関係機関だけでなく、地域企業との独自の連絡網を確立すべく、求職者など対象者がいなくとも連絡共有を図るなど連絡の頻度を高めていきたいと考えています。

企業等実習および就労体験受入事業所

株式会社Queen、和歌山縣ヘルス工業株式会社、鴻池運輸、紀州黒潮温泉、和歌山県立紀伊風土記の丘、ガーデンクリエイト株式会社、冬野の郷、ウェルネス・コート海南、第2親和園、HAPPY TRADE株式会社、天美苑、東洋検査工業(株)、ラ・ムー紀三井寺店、太洋社(パチンコLOVE海南店) 畠中整骨院、(株)ニトリ紀三井寺店、エーベル鈴木、ザ・パック(株)

⑥ 職業訓練

外部機関の講習への参加は、開催自体が少なかったこともあり、実施は叶いませんでした。令和2年12月から導入してきた株式会社manebiによる「オンライン訓練システム」をSSTなど事業所内訓練時にも活用し、令和3年4月からは、受け入れ人数に限り(実質リモート支援は1名ずつ)がありますが、リモートでの職業訓練も実施しました。資格取得援助については、介護事務に挑戦する利用者さんがおりましたが、ご本人の意向もあり、消極的な支援に留まっています。求職活動に有益な資格取得には、前年度の報告同様に、外部委託の方法を探る必要があると考えていますが、具体的なプランには結びついておりません。

⑦ 事業所内活動

感染対策として調理実習などの機会を控えておりましたが、令和3年11月より消毒やマスクを徹底する条件で実施を再開しています。体系的に学ぶ体制作りや個性の原理に基づいた活動を組んでいくことは、依然として課題のままです。今年度の特徴としては、コグトレを午後の活動前に実施するなど職業訓練に入る前の導入部分を作り、作業訓練と職業訓練の切り替え部分を設けたことで、参加意欲の向上が一部に認められました。毎回違ったテーマでSSTを実施していますが、継続して取り組む内容があることで、体系的に学ぶことの足掛かりになるのではないかと期待しています。リモートでの講習会に参加する機会もありましたが、実際に

勝る学びはないという反省もありました。「オンライン訓練システム」のIDを利用者さんごとに作成して開放したことで、一部の自習学習は拡充されましたが、そもそもインプットの方法が分からない、インプットの力が弱い方もおり、今後は実感を伴う訓練や活動を設けていくことを目標にしていきたいと考えています。

2) 自立支援教室ひだまりカフェ

① アウトリーチ(訪問活動)

令和元年以前より相談があったケースが、継続して不定期に相談が入ることがありますが、当事業所以外の外部機関にも、なかなかつなぐことができずにいます。昨年度に引き続き、コロナ禍を受けて、訪問活動やひきこもりに関する講習会などの実施は叶っておりません。

リモートでの講習会なども企画はありましたが実現せず、また電話相談などを聞き取る中では、ネット環境など情報にアクセスする力が不足しているケースが多く、リモートでの実施で得られるものが見込めないことも実現に至らなかった要因です。

他にも出てきた課題として「訪問活動をしてまず繋げるべきは医療」「当事業所としてどこまで取り組んでいけるか」といった問題も顕在化してきました。他法人で導入されているピア・カウンセリングなど電話や来訪による対応も持続可能な工夫点を探っていきたいと考えています。

② 生活訓練

今年度は、それぞれ異なる方面での課題を持っているケースがあり、生活面の課題解決を図る際には、非常に個別性の高いプログラムが必要となりました。合同で生活課題に向かうことができず、1対1での対応が迫られ、マンパワーの不足が大きな課題でした。また、本人の状態は日内変動も激しく、日によって要望が異なる場面も多く、支援員同士での連絡共有が間に合っていない場面も散見されました。体系的な学びには結びつきにくく、日によって、人によって、その時その時の支援を講じていくことになり、振り返りが難しいことが反省です。個別性の高いケースを整理し、支援の軸をどのように立てていくか、本人にも理解しやすいような見通しをどう示していくかが今後の課題だと感じています。

③ 事業所内作業

午前中は、昼食準備や事業所内清掃を主に行い、午後は、場面に応じて就労移行の訓練に参加する形が多かったです。生活訓練独自のプログラムは成立させることが難しく、外出や余暇、あるいは座談会などの機会を設けても、そもそも集団参加が困難なケースが多く、対応に苦慮しています。ただ、作業訓練という面だけ見れば、内職軽作業の量をおおむね確保できており、前年度と比較すれば、作業参加の場面は増えているように感じています。

④ 工賃実績(月平均※支給総人数で総額を割ったもの)

4月	5月	6月	7月	8月	9月
4,328	3,201	4,732	6,252	4,077	2,501
10月	11月	12月	1月	2月	3月
4,200	6,800	7,898	6,480	5,266	7,726
のべ工賃支給人数		6名	月平均	5,288	

3) 就労定着サポート室あしたば

① 職場定着に向けて

今年度も昨年度に引き続き、支援継続中の企業の中でも、コロナ禍の影響を受け、出勤停止はなかったものの、間引き勤務といった措置がありました。直接訪問による支援を拒否されたケースもあり、定着支援のあり方を見直す必要性を感じました。直接訪問が困難な場合でも、企業によっては非常に協力的なところもあり、情報共有が上手くできているケースもありました。メールや電話、SNSを活用した連絡手段は、対応できない利用者さんもありました。今後は連絡手段を確保していけるように、コロナ禍に関係なく、メールなどの活用方法を日常的に設けていくことを検討していきたいと考えています。また、毎月の支援レポートについては、文章だけでは伝達しにくい部分を考慮し、対面が難しい状況下ではありますが、企業担当者へ手渡しするようにしています。

② ジョブコーチや他機関との連携

これまでジョブコーチの配置が行われたケースの場合は、ジョブコーチ支援を優先していく方針でしたが、資格要件者の離職に伴い、自法人での配置は難しい状態です。職業センターのジョブコーチや他法人のジョブコーチとの連携を密に行っていくよう努めつつ、今後は就労定着支援の活用も積極的に進めて参ります。他機関との連携では、関係者会議の開催や日頃の情報共有をリモート会議や電話やメールといった方法で補うなどして、最低限の量と質を確保できていたのではないかと振り返っております。

4) きずなライブラリー

① まちライブラリー

移転後も規模の縮小はなく、蔵書は登録している分で894冊、おおむね1000冊程度あります。コロナ禍にあって、イベント開催などを自粛しており、主だった活動はできておりません。現状では、当事業所の利用者さんや卒業生が利用するのみになっています。本をテーマにしたイベントなどの開催が実施できれば、そこから地域交流の機会を設ける試みに発展できるので

はないかという期待もあるのですが、今年度には移転も実施したため、地域に根付いた空間づくりは再びスタートゼロ地点に戻った印象があります。

② おもちゃ図書館

29点のおもちゃが貸出可能な状態で設置されていますが、まちライブラリーの運営同様、主だった活動には至っておりません。また、貸出管理のあり方についても、現状運営している時間帯(9:00～17:00)では、利用者さんへの支援が最優先され、管理がおぼつかないのではないかという懸念もあります。ただ、運営実績がほとんどない状態であり、今後の取り組みの反省をするだけの材料がない状態が続いています。

③ 地域に開けた事業所作りについて

「不登校ひきこもり相談会議」は、前年度同様未実施でした。発達障害者の自助会「わかやまムーン」については、今年度はオンライン開催でなく、オフラインでの開催を毎月第3木曜日に実施しています。地域に開けた事業所作りがテーマですが、コロナ禍の影響下にあっては、人を集めてはいけないという制約があり、人の密集を避ける形での方法を見つけられなかったことが前年度に続く反省です。自助会も非常にクローズな会であり、同じ顔触れの参加が続く形になっています。大阪で自助会に取り組まれている「いきいきムーン」との共同開催で、企業向けのセミナーを実施する予定(5/22)もありましたが、コロナ禍に配慮するという理由で開催を断念しています。安全に実施できるかどうかを見極めながら、今後の活動を計画していきたいと考えています。

以上